

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171000120		
法人名	株式会社 ライフコンプリート		
事業所名	グループホーム紀水苑 やま・かわ		
所在地	佐賀市東与賀町飯盛224-1		
自己評価作成日	平成23年12月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成24年2月1日	外部評価確定日	平成24年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気を大事にし、その中で入居者個々に応じた役割(衣類たたみ,食事の準備等)を持ち、入居者本位を基本に、出来る事は自分でしていただき、さらに出来る事を増やしていけるよう働きかけ、また、日常生活の中で楽しみと笑いのある時間を持つように努めています。</p> <p>毎月1回は外出のイベントを企画しています。ホーム内のイベントについては、その月に誕生者がおられる場合は、誕生会を実施しています。また、幼稚園の運動会や隣接する施設の夏祭りやイベントなどにも参加し、地域社会とふれあう機会を持つようにしています。</p> <p>季節ごとの行事を心がけ、利用者には実際に楽しく体感してもらっています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>佐賀市郊外にデイサービスセンターやプールを持った健康施設に併設され、広い敷地の一角に位置したグループホームであり、開設されてもうすぐ満12年目を迎える。クリークに囲まれた静かな環境で入居者は、ゆったり毎日を過ごされている。クリーク沿いの土手には桜並木があり、暖かい日には絶好の散歩コースとなっている。入居者の生活も運営の方針に沿った家庭的な雰囲気を大事にしたスタッフの心配りがされている。外部評価も大切にされ、その都度スタッフ会議に議題として取り上げられ、例えば自動ドアの取り扱い等も入居者の自由な動きを抑制しないように工夫・改善され、入居者に対する暖かい処遇への意欲が感じられる。運営推進会議にもその都度報告されている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価/ユニットA(やま)	自己評価/ユニットB(かわ)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中で健やかで心豊かに自分らしく」を理念としており、その理念を実現させるために、方針を決め職員全員で共有し実践できるよう取り組んでいる。	「地域の中で健やかで心豊かに自分らしく」を理念としており、その理念を実現させるために、方針を決め職員全員で共有し実践できるよう取り組んでいる。	運営方針の「家庭的環境」を基礎として、地域密着型のグループホームとなるように話し合い、理念とされている。理念はスタッフミーティング等で唱和し共有、実践出来る様に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	幼稚園の運動会などに参加し、小・中学生の慰問も受けている。地域のボランティアも利用させていただいている。回覧板も定着した。しかし、日常的な交流は、できていない。	幼稚園の運動会などに参加し、小・中学生の慰問も受けている。地域のボランティアも利用させていただいている。回覧板も定着した。しかし、日常的な交流は、できていない。	現在、地域の回覧板については、スタッフで話し合い、地域との繋がりの手掛かりとなるよう回して頂いている。しかし、日常的な交流までには至っていない。	今後は、単発の行事や季節の催し等の関わりだけでなく、普段の暮らしの中で、近所の人たちが立ち寄り、遊びに来たりできる間柄が築けることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、毎回地域の方にも参加していただいております。その中で、認知症への理解や支援について議論することがある。	運営推進会議では、毎回地域の方にも参加していただいております。その中で、認知症への理解や支援について議論することがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している運営推進会議では、委員の方々から貴重な意見をいただき、サービス向上へ反映できるよう取り組んでいる。	2か月に1回開催している運営推進会議では、委員の方々から貴重な意見をいただき、サービス向上へ反映できるよう取り組んでいる。	運営推進会議は2ヶ月に1度開催され、議案書、議事録もきちんとファイルされている。出席者も自治会代表、地区民生委員、家族代表、そして地域包括センター等でメンバー構成され、意見が交わされている。来年度には地域の住民代表のかたの参加も計画している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、町の包括支援センターの担当者に毎回出席していただいております。施設の実情等を詳細に報告している。また、別件での来苑時にも情報交換を行うようにしている。協力関係は充分に築けている。	運営推進会議には、町の包括支援センターの担当者に毎回出席していただいております。施設の実情等を詳細に報告している。また、別件での来苑時にも情報交換を行うようにしている。協力関係は充分に築けている。	運営推進会議には地域包括センターの担当者の参加もあり、日頃から密に連絡を取り合える状態にある。又、市の担当部署とも出向いて話し合い、協力関係を築いていけるように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。前回指摘いただいた自動ドアに関しては、ミーティング等で話し合いを重ね、現在は、自動ドア解除の時間が長くなっている。	身体拘束の勉強会を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。前回指摘いただいた自動ドアに関しては、ミーティング等で話し合いを重ね、現在は、自動ドア解除の時間が長くなっている。	スタッフ全員が勉強会等を通じて身体拘束のリスクについては良く理解し共有している。鍵をかけずに安全に過ごせる工夫についても話し合いを重ね、改善されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての勉強会を実施し、虐待防止に努めている。	高齢者虐待についての勉強会を実施し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価/ユニットA(やま) (事業所記入欄)	自己評価/ユニットB(かわ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての勉強会を実施した。また現在、対象者1名が入居されている。	成年後見制度についての勉強会を実施した。また現在、対象者1名が入居されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の家族に対し十分な説明を行い、理解・納得していただいた上で、契約、解約、改定等の手続きを行っている。	利用者の家族に対し十分な説明を行い、理解・納得していただいた上で、契約、解約、改定等の手続きを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の声はいつでも聞き、運営に反映させている。また、家族からの意見・要望は面会時に聞いたり、介護計画書の説明時にも必ず伺うようにしている。また、運営推進会議や家族会の場で受け、運営に反映させるよう取り組んでいる。	利用者の声はいつでも聞き、運営に反映させている。また、家族からの意見・要望は面会時に聞いたり、介護計画書の説明時にも必ず伺うようにしている。また、運営推進会議や家族会の場で受け、運営に反映させるよう取り組んでいる。	入居者とスタッフは食事の時や入浴介助の時等いろんな場面でコミュニケーションはとれており、運営に反映させる様に努め、家族の方とは家族会や面会時に親しく希望や提案を頂ける様に努めている。玄関には意見箱も設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、職員の全体ミーティングを開催しており、定期的な発言の場を設けている。また、意見・提案等あれば随時出すよう声をかけている。実際に出た意見・提案はできる限り早く対応・反映できるように取り組んでいる。	月1回、職員の全体ミーティングを開催しており、定期的な発言の場を設けている。また、意見・提案等あれば随時出すよう声をかけている。実際に出た意見・提案はできる限り早く対応・反映できるように取り組んでいる。	代表者や管理者はミーティング、勉強会等でスタッフが自由な意思の表出が出来るような雰囲気づくりに努め、出された意見や提案を全体で吟味し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の貢献度、勤務状況等に関する、自己評価・上司評価・上司との面接を年2回実施し、評価に応じ賞与、昇給等に反映している。パート職員に対しても年1回上司評価を実施し、昇給に反映している。また、休みの希望等に対応できるよう体制の整備に努めている。	職員個々の貢献度、勤務状況等に関する、自己評価・上司評価・上司との面接を年2回実施し、評価に応じ賞与、昇給等に反映している。パート職員に対しても年1回上司評価を実施し、昇給に反映している。また、休みの希望等に対応できるよう体制の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部の勉強会だけではなく、外部の研修会等の受講や資格取得を積極的に進めている。	内部の勉強会だけではなく、外部の研修会等の受講や資格取得を積極的に進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの勉強会を行っている。また、年1回の交流研修もっており、情報交換の場となり、サービスの内容や質を見直すきっかけとなっている。	他のグループホームとの勉強会を行っている。また、年1回の交流研修もっており、情報交換の場となり、サービスの内容や質を見直すきっかけとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(やま) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(かわ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との信頼関係を築くため、いろいろな声に耳を傾け、行動を観察し、本人のペースに合わせて、徐々に信頼が構築できるように努めている。	本人との信頼関係を築くため、いろいろな声に耳を傾け、行動を観察し、本人のペースに合わせて、徐々に信頼が構築できるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や心配ごとと要望を聞き、1つずつ解決していき、家族との信頼関係も築いていけるよう努めている。	家族の不安や心配ごとと要望を聞き、1つずつ解決していき、家族との信頼関係も築いていけるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族からの話を十分に聞き、本人や家族にとって何が一番良いかを考え、対応していくように努めている。要望に応じてプールの利用や他サービスの利用も実施している。	家族からの話を十分に聞き、本人や家族にとって何が一番良いかを考え、対応していくように努めている。要望に応じてプールの利用や他サービスの利用も実施している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に笑ったり、怒ったり、泣いたり、家事等を通じ、一つ屋根の下で過ごす者同士の関係が築けるように取り組んでいる。	一緒に笑ったり、怒ったり、泣いたり、家事等を通じ、一つ屋根の下で過ごす者同士の関係が築けるように取り組んでいる。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携をとり、状況報告等を通じて、家族とともに本人を支えていく関係が築けるよう取り組んでいる。	家族との連携をとり、状況報告等を通じて、家族とともに本人を支えていく関係が築けるよう取り組んでいる。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親戚、知人がいつでも気軽に面会に来てもらえるよう声かけをしている。 また、お盆や正月、その他機会をみて自宅への外泊や外出の声かけを行い、馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。	家族、親戚、知人がいつでも気軽に面会に来てもらえるよう声かけをしている。 また、お盆や正月、その他機会をみて自宅への外泊や外出の声かけを行い、馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。	特に入居されて日の浅い方については家族の面会はもちろん、親しい方や古い友人だった方々に面会に来て頂けるようお願いしている。又、ご近所だった場所やお墓参りにドライブする事も計画を立てている。親しい人への手紙や電話も支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を十分に把握し、座る位置関係にも工夫を行い、家事等を通じて、皆さんが仲良く、良い関係が構築できるように支援している。	利用者同士の関係を十分に把握し、座る位置関係にも工夫を行い、家事等を通じて、皆さんが仲良く、良い関係が構築できるように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(やま) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(かわ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もこれまでの関係性を維持していきたいが、実際のところ、サービス終了後は相談等もなく、関係は途切れてしまっている。	サービス終了後もこれまでの関係性を維持していきたいが、実際のところ、サービス終了後は相談等もなく、関係は途切れてしまっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一日の中で利用者やとゆっくり話す時間があり、日ごろから利用者の声を聞き逃さないように心がけている。	一日の中で利用者やとゆっくり話す時間があり、日ごろから利用者の声を聞き逃さないように心がけている。	スタッフは日頃から入居者とゆっくり出来る時間を持つよう努めており、入居者の思いや意向は把握出来ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、あるいはその後も利用者や家族から詳細に話を聞き、生活歴などの把握に努めている。	入居時、あるいはその後も利用者や家族から詳細に話を聞き、生活歴などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	興味のある事、できる事等を中心に、日々の詳細な観察を行い、小さな変化も見落とさないように努め、記録し、職員全員が同一情報を共有できるようにしている。	興味のある事、できる事等を中心に、日々の詳細な観察を行い、小さな変化も見落とさないように努め、記録し、職員全員が同一情報を共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見・要望、職員の意見やアイデアを反映し、定期的な見直しを行っている。	本人や家族の意見・要望、職員の意見やアイデアを反映し、定期的な見直しを行っている。	入居時に介護計画作成責任者と居室担当者が、本人と家族に面談したうえで、計画を作成し、他のスタッフにも周知している。また、見直し時も同様に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に日々の経過記録を記入し、職員間でその情報を共有できるようにしており、介護計画等の見直しに活用している。	個々に日々の経過記録を記入し、職員間でその情報を共有できるようにしており、介護計画等の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	プールの利用や病院でのリハビリ訓練等も取り入れ、本人や家族の希望に対応できるように努めている。	プールの利用や病院でのリハビリ訓練等も取り入れ、本人や家族の希望に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(やま) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(かわ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は十分でなく、町のコンサートや幼稚園の運動会への参加にとどまっている。	地域資源の把握は十分でなく、町のコンサートや幼稚園の運動会への参加にとどまっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族との話し合いを行い、本人にとって適切な医療が受けられるよう支援している。また、かかりつけ医との関係も築けるよう取り組んでいる。	家族との話し合いを行い、本人にとって適切な医療が受けられるよう支援している。また、かかりつけ医との関係も築けるよう取り組んでいる。	基本的には従来のかかりつけ医に家族の送迎での受診をお願いしている。家族が無理な時はスタッフによる送迎を実施し、かかりつけ医との関係も築けるように努めている。又、月に1度内科医、3～4回の歯科医の往診もあるなど、家族の希望で協力医の受診も支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に変化などがあった場合は、看護職員への報告・相談は徹底しており、適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者に変化などがあった場合は、看護職員への報告・相談は徹底しており、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院や急変時に備えて、病院関係者とともに円滑な対応ができるような体制づくりに努めている。	入退院や急変時に備えて、病院関係者とともに円滑な対応ができるような体制づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を十分に踏まえ、また、かかりつけ医との連絡体制を整え、事業所として可能な限り対応できるように取り組んでいる。	家族の意向を十分に踏まえ、また、かかりつけ医との連絡体制を整え、事業所として可能な限り対応できるように取り組んでいる。	入居時の重要事項説明書、契約書の説明の折、ターミナル(看とり介護)の指針についても文書をもってご家族に説明している。又、入居者が重度化された時には、かかりつけ医・協力医・看護師の協力を得ながら随時家族とも話し合い、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救命救急講習の実施。また、事故発生時対応の勉強会を実施している。	消防署主催の救命救急講習の実施。また、事故発生時対応の勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した避難訓練を7月に実施。その時、地域の方々への参加も依頼しており、協力体制が築けるよう計画する。	夜間を想定した避難訓練を7月に実施。その時、地域の方々への参加も依頼しており、協力体制が築けるよう計画する。	年2回火災に備えて避難訓練、総合訓練を実施している。その内1回は消防署から来て頂いて夜間を想定した訓練も実施している。	今後は、職員だけの誘導の限界を踏まえ、訓練段階からの地域住民の参加、協力が得られることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(やま) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(かわ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は各利用者の人格を十分に尊重しており、人生の先輩として、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をするように心がけている。	職員は各利用者の人格を十分に尊重しており、人生の先輩として、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をするように心がけている。	年1回のスタッフ研修や新人研修において接遇についての勉強会の機会を設け、人格の尊重とプライバシーの保護に力をいれている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の都合で何かを決めるのではなく、本人の意思を尊重し日常生活が送られるように心がけている。	職員の都合で何かを決めるのではなく、本人の意思を尊重し日常生活が送られるように心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは大まかなもので、利用者のペースに合わせている。その日をどのように過ごしたいか、希望に沿った支援は十分にはできていない。希望が中々出てこない。	1日の流れは大まかなもので、利用者のペースに合わせている。その日をどのように過ごしたいか、希望に沿った支援は十分にはできていない。希望が中々出てこない。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段から着ていた好きな洋服を着てもらい、時には化粧をしたり、おしゃれができるように取り組んでいる。	普段から着ていた好きな洋服を着てもらい、時には化粧をしたり、おしゃれができるように取り組んでいる。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には食事の準備や片づけと一緒に実施し、定期的に食べたいもののリクエストを受け、一緒に調理を行っている。また、昼食は利用者と職員と一緒に食べている。	できる方には食事の準備や片づけと一緒に実施し、定期的に食べたいもののリクエストを受け、一緒に調理を行っている。また、昼食は利用者と職員と一緒に食べている。	入居者には食卓の準備や配膳、下膳やテーブルの後片付け等出来る事を手伝って頂き、食事はスタッフも共にテーブルを囲み、和やかな雰囲気の中で楽しんで食べている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による栄養管理を行っている。きざみ、おかゆ等、個々に応じた食事を提供させていただいている。また、食事・水分摂取量は1日を通して管理している。	栄養士による栄養管理を行っている。きざみ、おかゆ等、個々に応じた食事を提供させていただいている。また、食事・水分摂取量は1日を通して管理している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。また、利用者のできる範囲内で自分で実施していただいている。	毎食後に口腔ケアを実施している。また、利用者のできる範囲内で自分で実施していただいている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(やま) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(かわ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的な声かけ、誘導を行い、トイレでの排泄を行っている。 可能な限りトイレでの排泄、自立に向けた取り組みを行っている。	定期的な声かけ、誘導を行い、トイレでの排泄を行っている。 可能な限りトイレでの排泄、自立に向けた取り組みを行っている。	排泄チェック表を用いて定期的に声をかけ、誘導を行っている。夜間は、数名の入居者はバット、紙オムツ等使用の方もいるが、基本的には排泄パターンに応じた誘導により自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝・夕の体操や廊下での歩行を行い、定期的な運動の習慣化に努めている。 また、必要に応じてセンナ茶や処方薬での対応を実施している。	朝・夕の体操や廊下での歩行を行い、定期的な運動の習慣化に努めている。 また、必要に応じてセンナ茶や処方薬での対応を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	二日に一回、入浴実施。曜日や時間帯はある程度決まっているが、その時々に応じて対応している。一番風呂、シャワー浴、入浴拒否時など。	二日に一回、入浴実施。曜日や時間帯はある程度決まっているが、その時々に応じて対応している。一番風呂、シャワー浴、入浴拒否時など。	基本的には週3回を目安として入居者に入浴して頂くようになっているが、入居者の希望に応じた支援も出ている。 体調が悪く、湯に浸かるのが適当でない時等は、足浴やシャワー浴、清拭等で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の要望に合わせて、生活できるように支援している。職員から強要するようなことはない。	利用者の要望に合わせて、生活できるように支援している。職員から強要するようなことはない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服用薬についての勉強会を実施するとともに、服薬による症状の変化については、必要に応じて詳細な記録をとっている。	利用者の服用薬についての勉強会を実施するとともに、服薬による症状の変化については、必要に応じて詳細な記録をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食事の準備、買い物等の役割をもってもらうとともに、朝の集いの飲食、おやつを選んでもらったり、レクリエーション等で楽しみや気分転換できるよう支援している。	洗濯物たたみや食事の準備、買い物等の役割をもってもらうとともに、朝の集いの飲食、おやつを選んでもらったり、レクリエーション等で楽しみや気分転換できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回のイベント外出、気候の良い日には近所へ散歩に出かけている。 その日の希望に沿った、外出はない。	月1回のイベント外出、気候の良い日には近所へ散歩に出かけている。 その日の希望に沿った、外出はない。	天気が良く、暖かい日には、スタッフから声かけをして、出来るだけ散歩等で外へ出る機会をつくっている。花の季節になると月1回のバスハイクを企画するなど楽しんで頂いている。庭に、桜並木があるので、地域の方を招待し、一緒に過ごす計画もある。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(やま) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(かわ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々にお金を所持していただき、好きなものを購入してもらい、買い物の外出イベントを実施している。	個々にお金を所持していただき、好きなものを購入してもらい、買い物の外出イベントを実施している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、自ら電話できるように対応している。年賀状は毎年出しているが、今のところ、普段の手紙のやりとりはない。	希望があれば、自ら電話できるように対応している。年賀状は毎年出しているが、今のところ、普段の手紙のやりとりはない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの掲示をしたり、心地よく安心して生活していただけるようにしている。掲示物等は利用者で作成。	季節ごとの掲示をしたり、心地よく安心して生活していただけるようにしている。掲示物等は利用者で作成。	共用の空間の天井の所々には採光用の天窓が造られて、明るい日差しが入ってきている。壁面には行事の写真が飾られ、温・湿度も良く管理され居心地良く生活できる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはテーブルとソファを設置しており、時には1人で過ごしたり、仲の良いメンバーで過ごせる空間になっている。	共用空間にはテーブルとソファを設置しており、時には1人で過ごしたり、仲の良いメンバーで過ごせる空間になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗や湯飲みなどは本人や家族の希望により、好みのものを使用している。また、自室には本人の好みのものを持ち込んでいただき、快適に居心地良く生活できるようにしている。	茶碗や湯飲みなどは本人や家族の希望により、好みのものを使用している。また、自室には本人の好みのものを持ち込んでいただき、快適に居心地良く生活できるようにしている。	入居時に家族には自宅で本人が使用されていた使い慣れた物をお持ちいただくように相談し、仏壇、仏具やテーブル、ソファも持って来て頂いている。タンスの上には誕生カードや家族、お孫さんの写真等も飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分でできることは、可能な限り自分で実施していただき、安全に生活できるように支援している。	自分でできることは、可能な限り自分で実施していただき、安全に生活できるように支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない